

日本の鍼灸ビジョン

「鍼灸を活用した新しい日本型医療創生」

一連携・協調・自立一 に参加して

大阪府鍼灸師会
広報部長 小田ちづみ

【 「鍼灸を活用した新しい日本型医療創生」のための課題 】

- ① 医療機関での鍼灸について
 - ・専門性のちがいはどうするか
 - ・理解ある医師かどうかでちがう
 - ・医師と鍼灸師の話し合いが必要

- ② 鍼灸は保険で受けにくい・活用しにくいについて
 - ・技量、卒前教育、給付のしくみ
 - ・予防給付の創設
 - ・病名と治療に給付
 - ・保険組合には予防給付をする義務がある

- ③ 開業鍼灸師の教育について・・・どう技術が必要か
 - ・基本的臨床能力、知識・技能の向上
 - ・コミュニケーションの力と情報収集能力
 - ・プロフェッショナルリストとして・・・鍼灸師の倫理・責任・生涯教育

- ④ 鍼灸の科学的エビデンスについて
 - ・統合医療センター構想
 - ・基金をつくる・・・4団体が計画
 - ・鍼灸と西洋医学的標準治療との比較
 - 鍼灸が効くのならを受けてみたい人が50%
 - ・主観的健康観が医療の主流となってくる
 - 検査医療から心地良い主観的医療へ → 未病、予防給付
 - ・薬と違った鍼灸の効果を明らかにする
 - ・プライマリヘルスケア
 - ・鍼、灸、単体だけでなく西洋医学との相乗効果を明らかにする

- ⑤ 鍼灸が医療の一分野として確立されていないについて
 - ・・・その為に必要なことは！

- ・意識改革が必要・・・厚労省、医師の意識改革
- ・目的条項（医療としての鍼灸の確立）→ 単独法へ（医療としての鍼灸が確立されれば、必然的に法律改正となる）⇒ 医療人
- ・鍼灸師は鍼灸の良さをもっと広域的に多くの患者さんに伝えていかねばならない・・・そして患者さんに健康に生きて頂きたい。
- ・医療と鍼灸のコラボを検討していく

以上が大体の論点であった。

（意見）

東洋医学は医療大系をもった医学です。すべての病に対応するのが当然であり肩こり、腰痛など7疾患を診るだけのものではないはずです。

病院内に鍼灸治療室を設けても、医師のリクエストに応えるだけでは意味がありません。

私自身が30数年前に、小さい頃より悪かった腎臓の大きな手術を2回し、東洋医学に出会いました。鍼灸治療だけでなく、食養生を含めて、自分のこれまでの生活を見直すことの大事さを教えられ、自分の生きざまでも・・・・。今に思えば、まさに「黄帝内経」ですね。

東洋医学のすばらしさは何なのか。その人の生活や人生にまでも関わることで。表面的な症状だけを診るのではなく、その人が本当に健康に生きて行ける（心も体も）のお手伝いをすることです。

鍼灸師会は鍼灸師が集える唯一の場です。

まず・・・、鍼灸とは何かを問うてみるべきです。

「医療人」としての自覚を持たねばなりません。

『鍼灸師よ！、鍼灸師会よ！、目の前の小さな利権をおうことなかれ！、基本的理念をもて！。』と、言いたいのです。

6年制の漢方系医科大学の設立などを目的に入れるのは、単なる夢なのでしょうか？

それぐらい気概をもった鍼灸師会活動をしてみたいものです！！